



お知らせ

令和6年9月18日

| | |
|------------|---|
| 課名 | 産業労働部観光課 〔「森の芸術祭 晴れの国・岡山」 実行委員会事務局〕 |
| 担当・ 連絡先 | 山崎、山口（作品制作担当） 直通 080-1895-4575 森岡（広報担当） 内線 5285 直通 086-226-7843 |

アシム・ワキフ氏の作品制作にサポートスタッフが参加します

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」の9月28日開幕に向け、アシム・ワキフ氏の作品制作に岡山県立大学の学生がサポートスタッフとして参加し、活動する様子を公開しますので、お知らせします。

本件に関しては、県政記者クラブ、津山市政記者クラブ及び新見記者クラブに同時にお知らせしています。

記

1 作品制作会場

津山城（鶴山公園）（津山市山下135）

2 取材可能日時

令和6年9月24日（火）9:30～10:30

（9:20までに鶴山公園裏門（津山文化センター付近）へお越しください。）

3 アーティスト

アシム・ワキフ

4 作品概要

竹の丸太が即興的に組み上げられた構造物の中に、緻密に編み込まれた竹ひごが流線形に装飾された大規模なインスタレーション[※]作品を制作する。

※展示空間を含めて作品とみなす表現手法



画像はイメージで、実際とは異なります。

5 当日の活動

(1) 参加者

- ・サポートスタッフ5名（岡山県立大学デザイン学部学生）
- ・石間玄太郎コーディネーター 等

(2) 内容

アーティストと協働し、竹を組み上げや編む作業などを行います。

【参考】

アシム・ワキフ

1978年、ハイデラバード（インド）生まれ。デリー在住。デリーの都市計画建築学校で学び、映画やテレビ番組のアートディレクターとして働いた後、独立系の映像作品やドキュメンタリーの制作に従事。現在はアーティストとして自らの作品制作活動に取り組んでいる。

近年は建築、アート、デザインにまたがる領域横断的なプロジェクトを展開しているが、その背景には現代の都市設計や公共空間の占有／介入／利用にまつわる政策への強い意識がある。プロジェクトの一部は、社会の下層に追いやられた人々の隠れた活動空間として機能する廃墟を舞台としている。

ワキフの作品には、生態学や人類学に対する関心もしばしば織り込まれている。特に水、廃棄物、そして建築に関わる地域固有の生態系管理システムについて、ワキフは広範な研究を行ってきた。その作品の多くは、制作に手作業を伴い、多大な労力を要するように意図的に仕向けられている一方で、完成した作品そのものは一過性で、やがて崩壊することを前提としているものさえもある。彫刻からサイトスペシフィックなインスタレーション、映像、写真まで幅広く制作し、最近では伝統的な手法と新たなテクノロジーを融合させた、大規模でインタラクティブなインスタレーションも手掛けている。



Photo: Richa Sahai